

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.2〉

〈厚南③ 小学校歌〉

JR宇部駅から南東に約2キロ下った丘陵地に位置する厚南小（藤永雅宏校長）。1872年に学制発布が行われ、開校した。1989〜92年に校長を務めた卒業生の大窪静美さん（89）によると、在学当時は校歌が無く、代わりに昭憲皇太后御歌などを歌唱。「新時代にふさわしいものを」という学校の思いから、51年に初めて校歌が制定された。

丘から望む景色、リズムミカルに

校歌

一 明るいひかり 希望をこめて
丘の母校の 窓にふる
厚南 厚南 美しい
自治の校風 自律の気風
伸びる楽園 わがほこり

二 厚東の流れ 霜降山の
清く変らぬ その姿
明朗 明朗 あたたかい
夢と友情 湧き出るところ
いつも楽しい わが未来

三 輝くみどり たなびく煙
海もはるかに よんでいる
厚南 厚南 新しい
知恵と力の 若芽が育つ
丘の楽園 わが母校



来校した勝さん（中央）を囲む
当時の教員ら（提供）

制定は開校79年後

歌詞は、学校新聞の「学
校時報」を通じて一般募
集し、校区（現・地区）
内外から37作品が寄せら
れた。PTA文化部で審
査したもの適当な歌詞
が無く、当時のPTA会
長だった縄田尚門さんが
日本陸上競技連盟の技術

部長だった頃の人脈を生
かし、文部省（現・文部
科学省）唱歌「灯台守」
を作詞した東京在住の詩
人、勝承夫（かつ・よしお）
さんに作詞を依頼した。
勝さんは50年12月に教
育講演も兼ねて来校。辺
りの環境や自然を歌詞に
盛り込んだ。曲は勝さん
の知人で、同省唱歌「ス
キー」を手掛けた作曲家
の平井保喜さんが担当。
リズムミカルな音色と親し
みやすい歌詞に児童たち
はすくになじみ、歌い始
めた。

歌詞は3番まで。1番
の「丘の母校」は高台に
ある学校の場所を意味
し、2番にはかつて校庭
から望めた霜降山、地区
を流れる厚東川など古里
の自然を採用。3番の「た
なびく煙」というフレー
ズは、宇部興産（現・U
BE）の煙突からもくも
くと立ち上る煙を表現し
たと伝えられている。

校歌は在学中の子ども
たち、卒業生、先生など
同校に関わった人しか歌
うことのできない特別な
もの。それだけに、心を
込めて大切に歌ってほし
いと指導を続ける。音楽
の授業では歌詞の意味を
説明し、校歌に込められ
た思いを考えさせたり、
感じ取らせたりしている。
藤永校長は「コロナ禍
で声を出して歌いづらい
状況ではあるが、しっか
りと歌詞を覚え、大人に
なっても小学校を懐かし
みながら口ずさんでもら
えれば」と願っている。